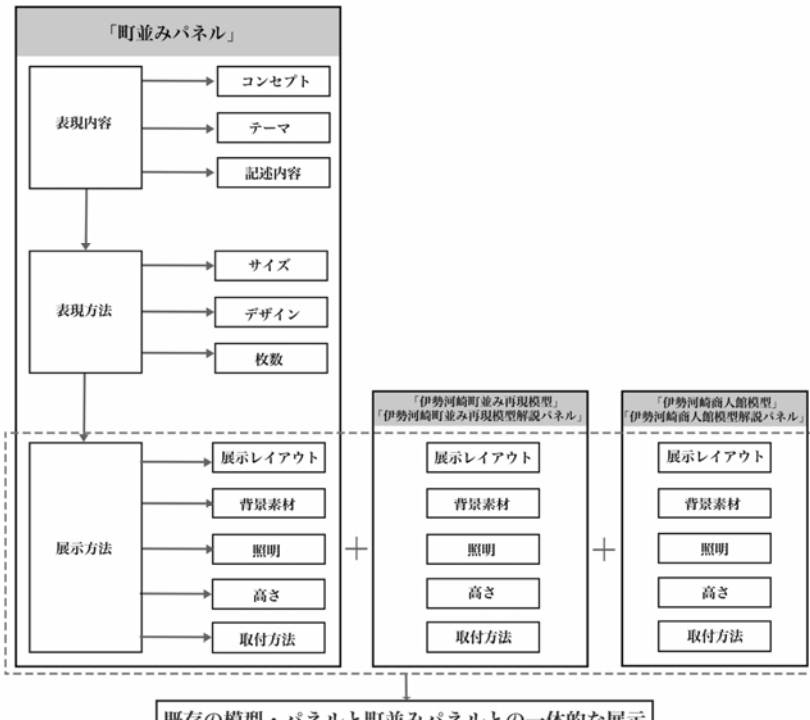


平成 29 年度 地域貢献活動支援報告書

地域イノベーション推進機構 殿

所 属 工学研究科建築学専攻  
氏 名 浅野 聡

活動 テー マ	「伊勢河崎商人館」における展示計画を通じた景観まちづくり活動の推進
実施 期間	平成 29 年 7 月 7 日 ～ 平成 30 年 3 月 31 日
活動 内容	<p>(1) 具体的な活動実施内容            全体的に実施計画書の通りに活動を実施することが出来ました。            具体的な活動は、以下の通りです。詳細については、<u>報告書を作成済み</u>であり、提出しますのでご覧下さい。</p> <p><b>①伊勢河崎町並みパネルの制作</b>            『初めて伊勢市河崎地区を訪れた人が楽しめるガイドブック的なパネル』をコンセプトに、<u>河崎のまちづくりの歴史を知り、現在の町並みとまちづくり活動を理解して、まちの将来を考えることをテーマとして、河崎の特徴が分かりやすく理解できる町並みパネルを制作しました。</u></p> <p>伊勢河崎のまちづくりに関する文献資料調査、伊勢河崎地区における現地調査、東海三県の資料館などにおける事例調査を通じて、パネル制作にあたっての基本条件を検討し、図 1 の通りとしました。</p> <p>町並みパネルは、昨年度の<u>地域貢献活動支援事業</u>として制作した「伊勢河崎町並み再現模型」と「伊勢河崎町並み再現模型解説パネル」<u>と一体化させ、一連のテーマとなるように制作</u>しています。</p>  <p style="text-align: center;">図 1 基本条件の構成</p>

## ②伊勢河崎町並みパネルの構成

パネルの構成は、まちづくりの「過去」、「現在」、「将来」の三部構成とし、それぞれ第一幕、第二幕、第三幕として、今年度は主に第一幕と第二幕を制作しました。

The timeline is presented as a river flowing from right to left, with various historical events and milestones marked along its course. The events are categorized into the Showa (昭和) and Heisei (平成) eras.

**昭和時代 (1926-1989)**

- 1926: 建設省「河川田舎工務計画」を公表
- 1926-1978: 家を守るために立ち上ったまちづくり運動が激化
- 1927: 伊勢河崎町並み調査団「伊勢河崎町並み調査報告書」を発刊
- 1928: 「伊勢河崎町並み調査団」を設立
- 1929: 「伊勢河崎町並み調査団」が町並み調査報告書「伊勢河崎町並み」を発刊
- 1980: 「伊勢河崎町並み」を町並み調査報告書「伊勢河崎町並み」を発刊
- 1982: 「河崎まちなみ館」を開館
- 1983: 勢田川改修事業 が完了

**平成時代 (1989-)**

- 1993: 「河崎まちなみ館」を「まちづくり博物館」に改定
- 1996: 「伊勢河崎町並み調査団」を「伊勢河崎町並み調査委員会」に改定
- 1997: 「伊勢河崎町並み調査委員会」を「伊勢河崎町並み調査会」に改定
- 1998: 「伊勢河崎町並み調査会」を「伊勢河崎町並み調査会」に改定
- 1999: 「伊勢河崎町並み調査会」を「伊勢河崎町並み調査会」に改定
- 2000: 「伊勢河崎町並み調査会」を「伊勢河崎町並み調査会」に改定
- 2001: 「伊勢河崎町並み調査会」を「伊勢河崎町並み調査会」に改定
- 2002: 「伊勢河崎町並み調査会」を「伊勢河崎町並み調査会」に改定
- 2003: 「伊勢河崎町並み調査会」を「伊勢河崎町並み調査会」に改定
- 2004: 「伊勢河崎町並み調査会」を「伊勢河崎町並み調査会」に改定
- 2007: 「伊勢河崎町並み調査会」を「伊勢河崎町並み調査会」に改定
- 2008: 「伊勢河崎町並み調査会」を「伊勢河崎町並み調査会」に改定
- 2009: 「伊勢河崎町並み調査会」を「伊勢河崎町並み調査会」に改定
- 2011: 「伊勢河崎町並み調査会」を「伊勢河崎町並み調査会」に改定
- 2013: 「伊勢河崎町並み調査会」を「伊勢河崎町並み調査会」に改定

図2 町並みパネル「まちづくりの歴史年表」

This section contains two detailed panels for the first act of the town planning history. Each panel includes historical maps, photographs, and text descriptions of the events.

**第一幕 七ヶ豪雨以前の伊勢河崎**

- 平安時代 (794-1185):** 河崎は「河崎」の名で知られ、河崎と河崎との間に河崎がありました。
- 室町時代 (1336-1573):** 室町幕府は河崎を治め、河崎の発展を促しました。
- 江戸時代 (1603-1868):** 伊勢河崎への参府が盛んで、河崎の発展を促しました。
- 明治時代 (1868-1912):** 明治維新以降、河崎の発展を促しました。
- 大正時代 (1912-1926):** 大正維新以降、河崎の発展を促しました。

**第二幕 七ヶ豪雨と勢田川改修**

- 七ヶ豪雨:** 1926年7月7日、河崎に70cmの豪雨が降りました。
- 勢田川改修:** 1926年7月7日、河崎に70cmの豪雨が降りました。
- 立ち退き反対運動:** 1926年7月7日、河崎に70cmの豪雨が降りました。
- 町並み保全運動:** 1926年7月7日、河崎に70cmの豪雨が降りました。
- 商人節懐想展:** 1926年7月7日、河崎に70cmの豪雨が降りました。

図3 町並みパネル「第一幕：まちづくりの歴史 第一場：七ヶ豪雨以前の伊勢河崎 第二場：七ヶ豪雨と勢田川改修」



### ③町並みパネルの展示

共同実施者である NPO 法人伊勢河崎まちづくり衆の協力を得て、制作した町並み再パネルを現地に搬入し、伊勢河崎商人館において展示を行いました。展示は常設展示としています。前述の通り、昨年度の地域貢献活動支援事業として制作した「伊勢河崎町並み再現模型」、「伊勢河崎町並み再現模型解説パネル」と一体化した展示になるように配慮しています。

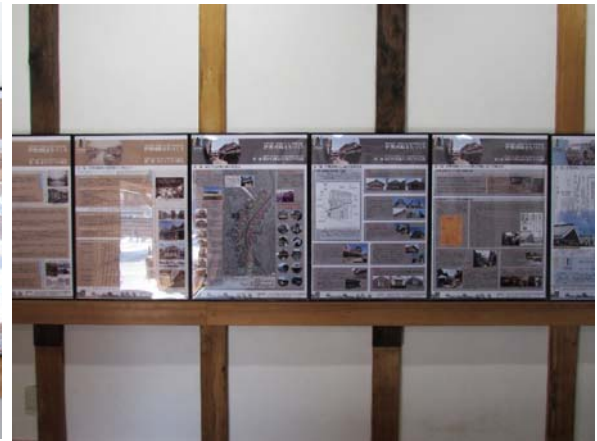



写真1 伊勢河崎商人館における展示の様子

#### ④伊勢河崎「新・蔵くら談義ⅩⅢ」における発表

平成30年3月18日に開催された伊勢河崎商人館における公開シンポジウム（伊勢河崎「蔵くら談義ⅩⅣ」）において、参加した地元関係者、伊勢河崎まちづくり衆等に対して、制作した町並みパネルについて発表しました。おかげさまで参加者からは高い評価を受け、多くの方に興味を持って頂くことが出来ました。なお、本シンポジウムは、本学の伊勢志摩サテライトの後援として承認して頂きました。



**伊勢河崎「新・蔵くら談義ⅩⅣ」**  
「町並み保全型まちづくりと地域創生」  
守る×活かす×育てる×創る×繋ぐ

日時 平成30年3月18日(日) 13:30～17:00  
場所 伊勢河崎商人館 角番座

内容  
研究報告 「伊勢河崎・まちづくりの展開」展示パネルリニューアル事業  
基調講演 テーマ「全国の歴史的町並み保存とまちづくりの動向」  
講師 山本玲子 NPO法人伊勢河崎まちづくり衆理事長

各地の報告  
東海道関宿 松阪 二見浦 伊勢河崎  
蔵くら談義 「三重の町並み保全型まちづくりと地域創生」(90分)  
コーディネーター 浅野 聡 三重大学大学院工学研究科准教授  
NPO法人伊勢河崎まちづくり衆代表理事  
コーディネーター 山本玲子 NPO法人伊勢河崎まちづくり衆代表理事  
パネリスト 奥野雅則 NPO法人伊勢河崎まちづくり衆代表理事  
中西士典 あいの会 代表  
服部聖樹 NPO東海道防副会長  
榎本浩忠 NPO法人伊勢河崎まちづくり衆理事長

参加費 70名(先着順)  
無料(但し、商人館入館料 300円必要です)

主催 NPO 法人伊勢河崎まちづくり衆  
協力 三重大学大学院工学研究科 浅野研究室  
伊勢まちづくり株式会社  
皇學館大学 OIL 伊勢河崎家リノベーションプロジェクト  
伊勢河崎木造り活性化協議会  
後援 伊勢市 伊勢商工会議所 三重大学伊勢志摩サテライト

先人の知恵と誇りを生かし、  
残し、伝え、育て、  
引き継ぐ 町の誇り



写真 伊勢河崎「新・蔵くら談義ⅩⅢ」の様子

#### (2) 地域への貢献（地域の発展・活性化への寄与、広がり）

伊勢河崎地区は、伊勢市景観計画にもとづいて歴史的町並みを保全するために重点地区に指定する方向で、伊勢市と地元関係者の間で協議中です。今回の地域貢献活動を通じて、伊勢河崎地区のまちづくりの歴史と現在に状況について、今まで以上に分かりやすく理解できる環境が整備できたと判断しています。今後の地区指定に向けて、昨年度に制作した町並み再現模型と解説展示パネル、今年度に制作した町並みパネルは、大いに役立つものと思われまます。

#### (3) 共同実施者との連携状況

共同実施者である NPO 法人伊勢河崎まちづくり衆とは、文献資料調査における関連資料の提供、現地における町並み調査の実施、町並みパネルの内容の検討と展示、公開シンポジウムの開催に至るまで、十分に連携することが出来ました。展示パネルはまちづくり衆からも高い評価を受け、大変に感謝をして頂いています。

#### (4) 大学の教育・研究成果のかかわり

今回のプロジェクトは、浅野研究室の大学院博士前期課程1年生の瀧本颯、チンダカン、田垣徳幸の諸君に取り組んでももらいました。大学院生にとっては、文献資

料調査、現地調査、他県の事例調査などを通じた調査分析に始まり、町並みパネルの制作と展示、調査研究報告書の編集に至るまで、都市デザインや景観デザインについて実践的に研究する有意義な演習課題になったと判断しています。

**(5) イベント等開催実績（名称，実施場所，参加人数等）**

前述の通り、今回のプロジェクトの発表の場として、以下の公開シンポジウムを伊勢志摩サテライトの名義使用の許可も得て開催し、盛況となりました。

名 称：伊勢河崎「新・蔵くら談義XIV 町並み保全型まちづくりと地域創生」

日 時：平成30年3月18日（日）

実施場所：伊勢河崎商人館角吾座（国登録有形文化財）

参加人数：約40名

**(6) これまでの取組みによって得られた具体的な成果について**

これまでの取組みによって得られた具体的な成果としては、以下の通りです。

①伊勢河崎商人館の入館者に対する伊勢河崎地区の歴史・文化・景観に対するガイドランス効果が生まれていること。

②特に、現在のまちづくりを知る上で重要である昭和時代（戦後）～現在にいたるまちづくりの流れを年表としてまとめるとともに、伊勢河崎地区のまちづくりに大きな影響を与えた七夕豪雨の発生とその後の町並み保全運動や伊勢河崎商人館の開館に至るまでの経緯について解説することにより、現在、展開している様々なまちづくり活動の背景と特徴について理解しやすくなったこと。

③地元の公開シンポジウムの場で、将来のまちづくりを検討する資料として活用され始めていること。

④以上の成果を通じて、現在、伊勢市と地元関係者で協議中の重点地区指定にあたり、その意義や必要性を理解する上で後押しとなることが期待されること。